

⑤

司書資格をもつ正職員の新規採用に関する陳情

1. 陳情の要旨

早急に司書資格を有し図書館の仕事に意欲をもつ正職員の新規採用を行い、持続可能な図書館運営体制の構築を図ってほしい。

2. 陳情の理由

鎌倉市は1993年を最後に図書館司書の正職員採用をとりやめ、いまや経験豊かで力量ある職員がここ数年のうちにいなくなるという事態に直面している。このままでは専門職体制の崩壊とそれによるサービス低下は免れないと考え、当会はこれまで4回にわたって司書の新規採用を求める要望書を市に提出したが、いずれも期待するような回答を得ることができなかった。

現在、当会は同趣旨の署名活動に取り組んでいるが、現在、約4000筆の署名が鎌倉市民を中心に全国から集まっており、多くの人たちから熱い支持と共感のメッセージをいただいている。このことから、この要望が一関係団体固有のものではなく、多くの市民の声であることが分かる。

他都市の状況を調べてみると、司書の新規採用は多くの自治体で実施されていることがわかった。また「第3次鎌倉市図書館サービス計画」にも「技術職員の採用と育成」が明記されている。この文書は図書館協議会に諮って承認され議会にも報告されて了承を得ている市の公式文書である。司書の新規採用を実施することは何か特殊なことではなく、多くの自治体が当たり前に行っていることであり、鎌倉市自身も事業計画実現のために必要な目標であり計画期間中（5年間）に実現すべきこととして位置づけていることがわかる。

司書を公募すると全国から多くの司書有資格者や実務経験者が応募し、そこから優秀で意欲ある人材を採用できるメリットがあるということも付け加えておきたい。これまで市からは司書資格をもった事務職員の異動によって補えるという考えも示されてきたが、若くて意欲ある有資格者がたまたま一般事務職にいたという偶然性に頼るのではなく、より長期的で計画性ある人事を行うべきである。とりわけ30年近くも司書採用が行われなかった空白を早急に埋めるには公募で司書の新規採用を行うのが有効かつ合理的と考える。

8月12日に教育長と、9月2日には市長と面談させていただき、署名を提出し、上に述べた要望理由を申し上げたが、それに対して教育長からは「持続可能な図書館の運営体制をどうつくっていくか、中央図書館長とともに考えたい」、市長からは「職員数適正化計画が大枠としてあるが、柔軟に考えたい。教育長とも相談しながら対応したい」という言葉をいただいている。これまでよりは一歩進んだ理解を得たと感じたが、今は正式な回答を待っている状況にある。この件につき市議会においても是非ご審議いただき、市民の要望に寄り添い後押しをしていただけるようお願いする次第である。

令和3年9月7日

提出者 図書館とともだち・鎌倉
代表 和田安弘
鎌倉市笛田 5-21-12

鎌倉市議会議長 中村 聡一郎 様